

釧路湿原川レンジャー News

釧路川の源流部で体験し、学ぶ！



10月3日（土）に第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催し、22名の川レンジャーが参加しました。今回は、釧路川の源流（起点）である屈斜路湖で特定外来生物「ウチダザリガニ」の防除体験を行うとともに、屈斜路湖周辺地域の特殊な自然環境や生態系について学び、理解を深めました。

特定外来生物「ウチダザリガニ」の防除体験をしました！

紅葉が始まった屈斜路湖和琴半島湖岸に到着後、ウチダザリガニの捕獲方法や活動の注意事項について説明を受けました。また、外来生物や特定外来生物について学んだ後、防除体験をしました。体験を通じて、私たちの身近にも外来生物が生息していることを知り、外来生物問題について考えるきっかけになりました。



今回は小さい個体ながら4尾のウチダザリガニを捕獲したほか、スジエビ類やドジョウ類、カワシンジュガイの仲間なども確認することができました。また、併せて湖岸のゴミ拾いもしました。防除体験終了後は、捕獲した生き物を観察しながら、それぞれの特徴や生態について学びました。

どうしてウチダザリガニを 防除するの？

ウチダザリガニは食用として1930年代に摩周湖に導入されました。その後、生息域は拡大し、釧路川流域をはじめ広く分布しています。在来種を捕食するほか、生態系等への影響が大きいことから特定外来生物に指定されています。そのため、今回の防除体験の対象としました。ウチダザリガニの観察



捕獲のレクチャー



護岸の隙間を探索



ゴミも拾ったよ！



捕まえました！



川湯ビジターセンターの展示の観覧もしました



お昼休みはそれぞれお気に入りの場所で！



名物の足湯！



阿寒摩周国立公園の特徴や管理について学びました！

阿寒摩周国立公園管理事務所の国立公園管理官の後藤 結花さんより、「日本の国立公園がどのような目的で指定され、どのように管理されているのか」をはじめ、阿寒摩周国立公園の特徴や魅力、見どころなどについてご紹介いただきました。

参加した川レンジャーは説明に熱心に耳を傾け、屈斜路湖における動力船の乗り入れ規制などについて質問するなど、関心の高さがうかがえました。

阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園は釧路川でつながっています。今回の講義は、普段親しんでいる釧路湿原や釧路川とは異なる自然環境や国立公園の役割について学ぶ貴重な機会となりました。



質問する川レンジャー(左)と回答する後藤さん(右)



阿寒摩周国立公園の森林環境と景観について理解を深めました！



川湯ビジターセンター長の安藤 心さんから、館内のジオラマを使って阿寒摩周国立公園内の自然環境や地形の成り立ちなどについて説明していただきました。阿寒摩周国立公園内の現在の地形は、長い年月にわたる火山活動によって形成されたことを学びました。

その後は野外に出て遊歩道を歩きながら、阿寒地域の大きな特徴であるアカエゾマツの純林※を観察し、その特徴や生態について詳しく解説していただきました。散策の途中では、幹に大きな穴が開いたアカエゾマツを前に、野鳥と樹木の関係や樹液の役割についても教えていただきました。参加者からは、「どのくらいでこの穴は塞がるのでしょうか」といった質問があり、自然への探究心の深さが伝わってきました。

今回の活動を通じて、火山活動とアカエゾマツの森との関わりや、純林の中で育まれる生態系について理解を深めることができました。

※純林：森林を構成する樹木の種類がほぼ一種類である森林であること



講師



マツヤニの香りを楽しみました

★2026年 観察活動の報告

タンチョウの雛について報告がありました

観察日	報告内容
9月16日	6月に報告した2羽のタンチョウの雛について、道路の横断中に交通事故に遭い、1羽死亡してしまったようです。もう一羽は元気にしています。
10月10日	オオハクチョウの渡りを今季初めて確認しました。野生生物保護センター近くの上空を南西から北東に向かって15羽程度のオオハクチョウの群れがVの字になって飛んでいました。
10月11日	シラルトロ湖へバードウォッチングに行きました。ヒシクイ、マガモ、カイツブリ、オオハクチョウを観察できました。いよいよ、冬が近づいています。
10月12日	細岡展望台から細岡駅付近までを散策しました。ノロコ号のラストランの後でしたが、ゴミ一つありませんでした。ほかにも全く異常はなく、良かったです。

観察活動は、川レンジャーの重要な活動の一つであり、釧路湿原や釧路川の環境を守るために大きな役割を果たしています。今後も「釧路湿原川レンジャーNews」で活動の様子や観察結果を紹介していきますので、引き続き皆さまからの報告をお待ちしています。

